

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 24 日

事業所名 児童デイサービスあゆむ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		椅子やベット等を活用しながら、工夫を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	2		適切である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5			バリアフリーのため段差がなく、下には物を置かない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	4		週に1度のミーティングにて支援会議や課題の検討をおこなっている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	1	必要に応じてアンケートを行い、集計し意見を反映している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ホームページにて公開中	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			5		第三者はいるが、評価は受けていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2		今年度は普通救命講習を受講している。	インターネット等で参加可能な研修情報の収集を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	2	1	意識的にアセスメントを行うことを習慣にしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1	2	状況把握に努めている	重心の子供たちなので、あくまでも基準は参考にし、個々に合わせの成長を促すようにしています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	3		固定はしていません。	支援員で活動の内容について話し合いをもち、季節感も取り入れている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	2		必要に応じ新しい内容を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2	1	季節感を取り入れるように工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	2	1	その日に状態などを観ながら決めている。	より細かい計画などを行っていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2		朝一今日全体利用状況の確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2		行っている。	子どもたちの状況変化があった時や支援方法を改善したい場合に支援の振り返りや状況の共有を行っています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		2	1	毎週のミーティングでも話を持っている。	大きな変化がない時は、半年に一度でおこなっている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている		2	1		ガイドラインを今一度確認していく。

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		支援員からの情報や看護師・理学療法士の意見を持ってサビ管が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			常に学校の掲示板や、ホームページなどの確認・親御さんから情報をもらっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			情報提供を頂き囑託医・看護師など必要に応じて相談できる環境である。	必要に応じ直保護者を通じて主治医に指示や手技などの確認と、身体的な事は、自宅送迎時にPTが同行し助言相談できるような体制を行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				対象児がいない。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			相談員が中心となり関係機関同士の連携が取れている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	1	理学療法士が直接関り必要に応じ、連携を図っている。	常勤で理学療法士がいるので、専門的な知識を皆に共有している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			5	コロナ感染を防ぐため現在は外部との接触を減らしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			5	コロナ感染を防ぐため現在は外部との接触を減らしている。	以前は参加していた。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			必要に応じ、日々行っています。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	1	常に心掛けています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			利用前にきちんと行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		保護者の不安が軽減できるよう支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			5	コロナ感染状況を踏まえて行いたい。	保護者同士のつながりを大切にしていきたいと思っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		1	担当窓口を周知しています。	苦情が無いように心がけていますが、苦情があった場合は、子どもや保護者の方々の心情を理解して迅速に対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		1	毎月お便りを発行しています。	
	35	個人情報に十分注意している	5			注意しています。	ミーティングなどでも時折配慮の必要に関して話を持っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			出来る限り行っている。	普段と違う様子や体調不良などの変化が見られた時は、直ぐに保護者へ連絡し情報共有や改善につながる為の話し合いを行っています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			5	コロナ感染状況を踏まえて行いたい。	地域の方々とも関りを多く持ちたいと常に考えています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2		行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている				行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1		行っている。	身体拘束は極力行わないというスタッフ間の思いがあり、身体拘束を行わずに安全に過ごせる方法を話し合い実践しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		親御さんからの情報提供。	利用前に一覧表への記入をお願いし情報提供してもらっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2		行っている。	主に新規利用者や、家具などの配置換えの場合に行っている。